

20th Anniversary



+1のあるまち
kasukabe

背景写真：昭和31年麦わら帽子の寒干し（個人蔵）

春日部市市制施行20周年記念

郷土資料館 夏季展示（第72回）

麦わらの かさかべ ～ 帽都いまむかし～

題字：嶋村有華（埼玉県立春日部女子高等学校書道部）

2025.7.23～9.7



夢みえるシティ
SDGs未来都市 春日部

春日部市郷土資料館

春日部市粕壁東 3-2-15

入館無料

048-763-2455

月曜祝日休館

ブログ「ほごログ」



“麦わら”が生んだ帽都の物語

春日部市の特産品として知られる「麦わら帽子」は、明治時代に農家の副業として普及する^{ばっかんぎなだ}麦稈真田編みに始まり、やがて麦稈真田を加工する帽子づくりへと発展しました。かつて市内には何軒もの帽子製造所があり、農村部には^{きょうぎさなだ}麦稈・^{ぼうと}経木真田を編む農家の女性たちが数えきれないほどいました。帽子産業が盛んな町であることから春日部を「帽都」と呼ぶ人もいたほどです。国内外の需要に応じて、原料を経木やマニラ麻に代え、今日まで至った春日部の帽子づくりの歴史をひもときます。



昭和 20 年代半ばごろ 帽子の縫製
(株よこい提供)



環縫いミシン (株田中帽子店協力)



大正 2 年 経木真田編みの光景 (『商品改良会報告』より)

“麦わら”を編む・縫う 匠のわざ



麦わら帽子 (株田中帽子店提供)

麦わらから編まれた一本の麦稈真田を、昔と変わらぬ技法で、職人が一つ一つ丁寧に縫い、春日部の麦わら帽子はつくられています。かつては農作業用の労働帽。戦後はレジャー用の経木帽子。近年は幼稚園の夏帽やストローバック。そして、現在はファッションアイテム。世の中が移り変わっても、職人の“わざ”と帽子への想いは不変です。



帽子のウズの縫いはじめ (株田中帽子店協力)

“麦わら”に親しむ関連イベント

記念講演会「関東の麦わら細工」

講師 山田淳子先生 (小山市立博物館)

8 月 31 日 (日) 14 時～16 時

ところ 春日部市教育センター 定員 100 名 (申込順)



展示解説講座「春日部の麦わら帽子と関連産業」

9 月 6 日 (土) 10 時～12 時

講師 郷土資料館学芸員

ところ 春日部市教育センター 定員 100 名 (申込順)



みゅーじあむとーく (展示解説)

8 月 20 日 (水)

10 時 30 分～、15 時～ (30 分程度)

ところ 郷土資料館企画展示室 申込み不要



麦稈真田 (館蔵)



昭和 55 年 経木帽子をかぶる春日部中の生徒たち (個人蔵)